



ホットワード ～脱炭素社会～

2020年10月、日本政府は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち**2050年カーボンニュートラル**、**脱炭素社会の実現**を目指す」ことを宣言しました。



地球温暖化の原因となっているCO2のうち、約3分の1が建物のライフサイクルを通じて排出されているそうです。建築の分野で環境問題に配慮することは非常に大きな意味を持つことといえるでしょう。

①木造高層建築物の増加

木造高層建築物が増えてきた理由の背景には、「**制度改革**」「**技術の向上**」「**環境**」「**資源**」の4つがあります。

これまでは一定規模の建築物に対して木材の使用が規制されていましたが、2000年の法律の改正で、火に耐えられる性能を満たせば、使うことができるようになりました。

鉄筋コンクリート作りと比べて**二酸化炭素の排出を抑える**ことができるため、今の「脱炭素」の潮流にも合致します。木造は今後の建築のキーワードになり、入居者の嗜好にも影響を及ぼす可能性も考えられるでしょう。

②エコマテリアルの登場

エコマテリアルは、**優れた機能や特性を持ちながらも、人にも環境にも優しい材料**です。これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の社会は、私たちの暮らしを豊かで便利なものにしました。一方で、資源・エネルギーの消費の増大とそれに伴う廃棄物の大量発生、天然資源の枯渇、資源採取に伴う自然破壊、埋立処分場の問題など、環境に対するさまざまな悪影響を生じることとなりました。今後も持続可能な発展を続けていくためには、「**循環型社会**」の**形成**が求められています。木材や竹材といった天然素材はもちろん、リサイクルしやすいプラスチック(熱可塑性樹脂など)や生分解性プラスチック、建設廃棄物や下水汚泥から作られた路盤材や透水性ブロックなどもエコマテリアルの一種といえます。

③建築環境総合性能評価システム「CASBEE」

建物の環境性能を客観的に評価する仕組みとして**CASBEE**というシステムが導入されています。

CASBEE(建築環境総合性能評価システム)は、建築物や都市の環境への影響や環境に配慮した設計や運用がどの程度行われているのかをさまざまな側面から客観的に評価するための総合的な評価システムです。

建築物のライフサイクルを通じた評価により、建物の設計や運用において、環境への配慮がどれだけ行われているかをより全体的に判断することができます。

CASBEE評価認証を取得することにより、**建築物や住宅に対する環境対策を行っている企業として外部に証明することができます。**

情報広場 ～自社をPRしてみませんか？～

双方向の情報発信ができるツールの1つとして、また自社製品をPRする機会がないとお悩みのお客様も、是非情報広場をご活用ください。当紙面にてご紹介させていただきます！(無料)

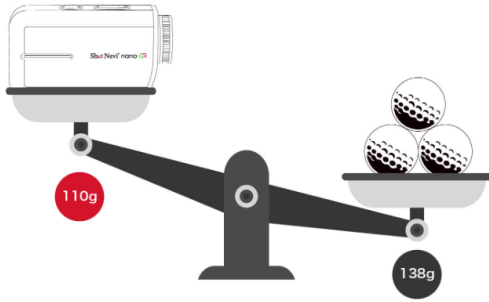
☆掲載申込、お問い合わせは弊社営業または右記QRコードよりお願いします。

(必ずしも掲載されるとは限りません。ご了承下さい。)



おすすめ商品 ～nano GR～

本機は、ラウンド中の持ち運びが面倒というゴルファーの声に応えるべく、「超小型・超軽量モデル」を実現しました。
カードサイズで、いつでもプレーに支障なく携帯することができます。
コンパクトサイズでありながら「緑・赤」2色OLEDを搭載することで視認性を大幅に向上させました。
本機は、持ち運びやすさと見やすさの両方を重視したモデルです。



高低差のあるショットの場合、“Shot Navi独自のアルゴリズム”で計測された直線距離に加え、打ち上げ、打ち下ろし時において、高低差情報を加味した実際に打つべき目安距離を自動で計算し表示します。

ポイント計測、ピンシーク計測（ピン探索補助機能）、スキャン計測の3つの機能を搭載。約0.2秒で計測が可能です。

ぜひ弊社担当までお問い合わせください。



【Shot Navi/nano GR】

営業所の紹介 ～福岡営業所～

初めまして！福岡営業所内装建材課の松崎と河原です。
今回は、私達が福岡営業所の紹介をさせていただきます。

当営業所は今年度、5名の新入社員を加え、計15名が内装建材課として在籍しており、活気のある営業所となっております。

我々、内装建材課は石膏ボードや建築用鋼製下地材を中心に取り扱いしており、軽天屋さんの要望に沿った部材の仕入れや配達、販売等を行っております。

そんな福岡営業所ではお客様一人一人とのご縁を大切に、親しみやすい営業所としてこの街を支えています。また、営業所の中でもお互いがお互いを支えあった職務を行うことで、信頼を築き、日々笑いの絶えない場となっております。

今年度は多くの新入社員が増え、より一層活気のある営業所として、明るく元気に頑張っていきます。



みんなの防災 ～熱中症～

2023年夏(6～8月)の日本の平均気温の基準値(1991～2020年の30年平均値)からの偏差は+1.76℃で、1898年の統計開始以降、2010年を上回り最も高い値となりました。最高気温が35度以上の「猛暑日」の日数は全国38地点で最多となり、過去151年で猛暑日が一度もなかった北海道函館市で初めて記録されるなど、日本の夏の平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.25℃の割合で上昇しています。

意外にも熱中症を発症する場所として多いのが、「室内」になります。消防庁の調べによると、住居が42.6%、公衆(屋内)が8.3%を占めており、約半分が室内で熱中症になったことがわかります。

直射日光のあたらない室内でも、意識的な水分補給や、エアコンの活用を心がけましょう。

【問合せ先】



お問合せは担当営業までお声掛けください！